

「堂々川；活動テーマ「ホタルと花と砂留と」

2024(令和6)年7月25日 堂々川ホタル同好会情報紙 2024年度第3号(創刊231号)

1. 7月定例会は7月21日30名、最近10年間では最大の参加者。
2. 8月5日堂々川第15回水質調査が開催されます。
3. 7月の堂々川ホタル同好会の主な出来事。

7月21日梅雨明けの日、最高気温35度を記録した猛暑のなかで汗だくで作業をおこないました。作業は一番砂留(百働会跡地)付近一帯、6番砂留下流川の中(水質検査対応)、4番砂留上流土手斜面の草刈り作業。河原&道路のゴミ拾い、電気柵電線下の草取り、花壇の造作、物置用(資材&工具)テントの設置、6番砂留下流河原の草片付けでした。

4.目で見える事例



作業ミーティング



一番砂留(百働会跡地)付近一帯草刈り



6番砂留下流川の中(水質検査対応)草刈り



電気柵電線下の草取り



電気柵電線下の草取り



道路のゴミ拾い



花壇の造作



記念樹の状況確認



堂々川ホタル同好会看板

5.次回の定例会

8月18日(日) 1番砂留駐車場に集合 8:00~10:00

作業内容: 彼岸花の開花する場の草刈りが中心。猪が掘った場の修正、ごみ拾い
彼岸花開花までには数回草刈りを行います。空いた時間ご協力ください

6. 発行責任者 堂々川ホタル同好会 会長 中山晋一

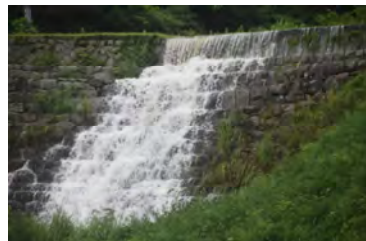
7. 会の活動を行う為保険に入ります。参加される人は8月15日までに ライン調整さんへ

冊子「神辺の砂留」を再発刊

2018年に発刊した冊子「神辺の砂留」は会員の多くが堂々川の歴史をご存じないのことから100部増版しました。私たちはボランティア団体なので皆様や役員各位に販売の御協力を依頼し1カ月ほどで在庫が無くなりました。ある役員曰く販売して分かったことは堂々川ホタル同好会の知名度は地元では今一つない人が多いのには驚いたと。堂々川砂留は江戸時代築造で、国認定砂留約200件の中では1番古いようです。特に1番砂留は1700年頃の築造であるが資料がないので冊子のような言い方で最古を認知しました。会が設立した2006年4月、すぐ後の8月に国=文化庁から登録有形文化財に認定されました。その後、国・県地元では何の整備に関する動きは見られませんでした。堂々川でホタルを飛ばそうが設立目的でしたので、当初砂留整備、捨てられたゴミ類を一生懸命拾いました。そんな作業の一環から自然界に興味を持ちカスミサンショウやヘビトンボ、ガガブタ、アカハライモリ等絶滅危惧、準絶滅危惧認定の動植物が多く見つかっています。そして6月22日現在の堂々川です。



迫山砂留



5番砂留



6番砂留



ご寄付頂いた地域企業・団体・個人の皆様ありがとうございます

亀川病院・キングパーツ(株)・テラル(株)・こどもえんみどり・(株)御領精螺・榊原哲也・しげまさ歯科・まが医院・(有)ジャパン・ラム・(有)石宝・(有)中国美装サービス・プランネットエンジニアリング(有)・楊貴妃・ゆうゆう神辺・ワンエイト(株)・(有)神辺ふかしな葬祭・(株)フカイ・御領郵便局・桑田哲治 (敬称略 順不同)

不掲載の企業もございます

ご支援ありがとうございます。ご寄付頂きました支援金は有効に且つ大切にさせていただきます。

堂々川ホタル同好会のホームページアドレスは dodogawa.com です。